

杉並区総合教育会議記録

| 項 目 | 内 容 | | | | | | |
|-------------|--|------------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 日 時 | 平成29年5月15日(月) 午後1時～午後2時37分 | | | | | | |
| 場 所 | 第3・4委員会室 | | | | | | |
| 出 席 者 | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">区長 田中 良</td> <td style="width: 50%;">教育長 井出 隆安</td> </tr> <tr> <td>教育委員 對馬 初音</td> <td>教育委員 折井 麻美子</td> </tr> <tr> <td>教育委員 久保田 福美</td> <td>教育委員 伊井 希志子</td> </tr> </table> | 区長 田中 良 | 教育長 井出 隆安 | 教育委員 對馬 初音 | 教育委員 折井 麻美子 | 教育委員 久保田 福美 | 教育委員 伊井 希志子 |
| 区長 田中 良 | 教育長 井出 隆安 | | | | | | |
| 教育委員 對馬 初音 | 教育委員 折井 麻美子 | | | | | | |
| 教育委員 久保田 福美 | 教育委員 伊井 希志子 | | | | | | |
| 欠 席 者 | (なし) | | | | | | |
| 出席説明員 | <p>(杉並区)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">副区長 宇賀神 雅彦</td> <td style="width: 50%;">副区長 吉田 順之</td> </tr> <tr> <td>政策経営部長 白垣 学</td> <td>総務部長 関谷 隆</td> </tr> <tr> <td>企画課長 伊藤 宗敏</td> <td>総務課長 原田 洋一</td> </tr> </table> <p>(教育委員会事務局)</p> <p>教育委員会事務局次長 徳嵩 淳一 教育企画担当部長 白石 高士 学校整備担当部長 大竹 直樹 生涯学習担当部長 中央図書館長兼務 齋木 雅之 庶務課長 都筑 公嗣</p> | 副区長 宇賀神 雅彦 | 副区長 吉田 順之 | 政策経営部長 白垣 学 | 総務部長 関谷 隆 | 企画課長 伊藤 宗敏 | 総務課長 原田 洋一 |
| 副区長 宇賀神 雅彦 | 副区長 吉田 順之 | | | | | | |
| 政策経営部長 白垣 学 | 総務部長 関谷 隆 | | | | | | |
| 企画課長 伊藤 宗敏 | 総務課長 原田 洋一 | | | | | | |
| 傍 聴 者 数 | 2名 | | | | | | |
| 協議事項等 | <p>1 平成 28 年度の取組と成果について……………3</p> <p>2 平成 29 年度の取組について……………3</p> <p>3 その他……………17</p> | | | | | | |
| 会 議 資 料 | <p>杉並区総合教育会議 次第</p> <p>資料1 杉並区総合教育会議 委員名簿</p> <p>資料2 席次表</p> <p>資料3 教育委員会における主な取組について</p> | | | | | | |
| 事 務 局 | 総務部総務課総務係 | | | | | | |

区長 それでは、時間になりましたので、平成29年度杉並区総合教育会議定例会を開会いたします。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴い、平成27年度から開催しております。運営基準及び傍聴基準に従い進行してまいります。会議につきましては、同法第1条の4第6項において、個人の秘密を保つため必要があるときなどのほかは公開となっておりますので、よろしく申し上げます。

なお、傍聴人から事前に撮影、録音の希望がありましたら、これについて許可したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

(異議無し 了承)

区長 本日の会議では、2つの議題について協議いたします。

1つ目は、平成28年度の取組と成果。2つ目は、平成29年度の取組についてでございます。次第の上では別々に審議することとしていますが、28年度の取組を受けて29年度取組を行うものもあることから、一括して審議したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

(異議無し 了承)

区長 それでは、一括して審議するというので、私と教育長からそれぞれ区長部局での取組と教育委員会での取組を平成28年度及び平成29年度について説明してまいりたいと思います。

それでは、まず私から、平成28年度と平成29年度の区の取組について説明してまいります。

平成28年度は、4月18日に「杉並保育緊急事態宣言」を行い、そして5月には「待機児童解消緊急対策」を決定し、これまでにない2,000人を超える規模の保育定員等の確保に全力を尽くしてまいりました。

その結果、平成29年4月の待機児童数は、区独自の定義により集計を開始した平成25年4月以来最少の29名となりました。もし、緊急対策を実施しなかった場合、29年4月の入所申込状況から見ると、杉並保育緊急事態宣言で見込んだとおり、約520名の待機児童が発生していたことになり、危機的状況の回避につながりました。また、保育定員の大幅な増加や学校をはじめとする大規模な区立施設の改築等の影響により、厳しい財政状況が見込まれる中、区政を取り巻く環境の変化に的確に対応し、総合計画10年プランの後半を迎えるに当たり、基本構想実現に向けた取組をより一層加速するため、昨年11月「実行計画」、「協働推進計画」、「行財政改革推進計画」及び「区立施設再編整備計画」の改定を行ったところでございます。

次に、平成29年度の予算編成の考え方についてご説明いたします。今年度は、先ほど申し上げたとおり改定した計画のスタートの年であるとともに、総合計画10年の折り返しとなる重要な年でもあります。こうした認識に立って、平成29年度予算を「時代の先を見据え、10年ビジョンを加速させる予算」と名づけ、「首都直下地震等に備えた減災・防災対策の推進」、「将来にわたるにぎわい創出に向けた環境整備と魅力発信」、「豊かなみどりと持続可能な環境を次世代に継承」、「超高齢社会の進展を見据えた健康づくりと福祉の充実」、「未来を担う子どもたちのための教育・支援の拡充」の5つの視点に意を用いて、様々な施策を推し進めてまいりたいと考えています。

5つの視点のうち、教育分野に最も関連する「未来を担う子どもたちのための教育・支援の拡充」に向けた主な取組として、区内全ての就学前教育施設がより質の高い幼児教育を行うことができるよう、(仮称)就学前教育支援センターの整備を進めるなど、今後の幼児教育の質の向上に向けた取組の充実を図ること、学校を取り巻く複雑、多様化する課題に的確に対応していくため、

部活動活性化事業の拡充など、地域人材や専門人材を活用し、学校経営を支えていく仕組みを充実させること、ICTを活用してより効果的な授業を実施し、子どもたちの学びの可能性を拡げていくこと、これらの施策を29年度重点施策として予算に盛り込んでおります。

そのほか、区といたしましては、「待機児童の解消の実現と対策の継続」と「ふるさと納税制度の活用」に重点的に取り組んでまいります。

昨年度に引き続き、29年度も高まる保育需要に対応するため、区立和田中学校の一部敷地を活用することを含め、認可保育所を核とした1,500名を超える規模の施設整備を行い、待機児童解消に向けて引き続き手を緩めることなく取り組んでまいります。

ふるさと納税制度の活用につきましては、ふるさと納税を通して寄附文化の醸成が図られるような制度の運用を目指します。本来のふるさと納税は、自分を育ててくれた生まれ故郷への恩返しとして、故郷に寄附することで、地方を応援しようとするものです。しかし、今日のふるさと納税は、何とかして寄附をしてもらおうと、ブランド肉やカニなどの高級品を用意する返礼品競争があまりにも加熱しています。「ふるさとを応援する」はずが「返礼品を選ぶ」になり、それが結果として住民税の奪い合いになってしまっているのが現状です。杉並区でも本来区が受け取り、区民サービスに使われるべき住民税が他の自治体に流出する事態が拡大し、29年度はその額が10億を大きく超えるのではないかと予想しております。このまま増え続ければ3年で学校を一つ作れるほどの額になってしまいます。私は高額な返礼品を求めての寄附は本来の姿ではなく、この制度の本来の趣旨である、みずからを育ててくれたふるさとを応援するための寄附という原点に立ち返るべきだと考えています。杉並区のふるさと納税は返礼品競争に参入せず、ふるさと納税を通じて次世代育成基金への活用など、本来の寄附文化の醸成が図られることを目指したふるさと納税制度としてまいる考えです。

次に、29年度の組織機構改正についてです。ご案内のとおり今年度、スポーツ振興課を教育委員会から区長部局に移管いたしました。スポーツ事業については、これまで教育委員会が社会教育事業の一環として区長部局と連携した取組を進めてまいりましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、観光交流事業や健康増進事業等を一体的に推進することに加え、スポーツを通じた地域づくりや健康、福祉などの施策との連携を一層強化し、より効果的な事業展開を推進していく必要がございます。

こうしたことを踏まえ、教育委員会事務局から区民生活部内にスポーツ振興課を新設した次第であります。今後もこれまで以上に教育委員会と連携して事業に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、次に教育委員会の平成28年度取組と成果及び平成29年度取組について伺いたいと思います。

では、教育長、お願いいたします。

教育長 教育長の井出です。私からは平成28年度取組と成果及び平成29年度取組についてお話をいたします。

初めに、新たな教育課題の対応を目指して、今、教育ビジョン推進計画の改定に取り組んでいるところでございます。この教育ビジョン推進計画の改定に当たっての基本的な考え方といたしましては、オリンピック・パラリンピック教育や新学習指導要領への対応といった新しい課題のほか、昨年11月に改定されました杉並区実行計画等との整合性を図るなど、時代の変化を踏まえ

て改定を目指しているものでございます。

改定のポイントといたしましては3つありまして、まず1つは、指標の見直し、2つ目は、当然それに伴う計画内容の見直し、そして3つ目は、計画の目標と方針の見直しということになっておりますが、現在整理を終えてパブリックコメントの提出を受けているところでございます。

この区民等の意見提出手続は4月19日に終えているところですが、総数14件、延べ67項目にわたってのご意見をいただきました。

今後の予定ですが、こういったご指摘やご意見に対する検討をして、必要な修正箇所等を整理いたしまして、5月24日の教育委員会で決定いたします。

6月8日の文教委員会に報告して、6月15日広報すぎなみ、ホームページで公表という予定になっております。

次に、推進計画の内容についてです。推進計画は、切れ目のない教育、学校の経営力・教育力の強化、個に応じた指導の充実、地域との協働、教育環境の整備、生涯学習の充実というカテゴリーに分かれているわけですが、その取組の目標の項目について幾つか例を挙げながら説明をしていきたいと思っております。

お手元にあります「教育委員会における主な取組について」というA3横書きの資料がございますので、ご覧ください。

まず1番の「学びをつなげ、切れ目のない教育を進めます」という点でございますが、大きく「小中一貫教育の推進」、「就学前教育の充実」、そして新たな課題として「新学習指導要領等への対応」がございます。平成28年には小中一貫教育カリキュラムの作成を行いまして、これまでに国語、算数・数学、外国語が完成し、29年度には総合的な学びのテキストを完成する予定です。この総合的な学びにつきましては、杉並区教育委員会が標榜いたしますかかわりとつながりを重視した教育、これを進めていく。そういった学習、学びの主たる教材となるような内容です。現在、ほぼでき上がって、今後お目にかけることができるかと思っております。

それから、2つ目は、杉並和泉学園が開園して1年目の評価を昨年行いました。今年度はさらに継続的にこの評価を検証していく予定でございます。

それから、就学前教育支援センターがいよいよ開設に近づきまして、今年度は実施計画等具体的な取組が進められることと思っております。関係機関からもかなり高い期待を寄せられておりまして、就学前教育、それから就学後の教育の良好な連携、あるいは近年大きな課題になっております就学前の発達課題を持つ幼児の教育のあり方等について適切な対応、あるいは研修、指導内容の開発等が進められることと期待をしております。

それに伴いまして、幼・保・小連携推進教育を進めてきているわけですが、先ほど関係機関からの期待が大きいというお話をしましたけれども、こういった就学前と就学後の教育のあり方について、それぞれの立場から共通に理解をして、適切な指導を行っていくという意味では、今年度は指定校を15校に増やして、一層充実させたものにしていきたいと計画をしております。

新しい学習指導要領が平成32年度から開始することになっているわけですが、それに伴いまして、小学校の5・6年生の外国語が週2時間、教科として行うことになっております。当然、こういった外国語の教育のプログラム、あるいは指導法に関する研修、こういったことも今年度は重点的に取り組んでいく必要があるかと思っております。

あわせて、ご承知のようにプログラミング教育の実施も求められておりまして、新しい内容になり

ますので、何をどのようにしていくのかということは、児童・生徒の発達段階に見合った教育をするためにも今後、検証・検討を行っていく必要があるかと思えます。

2つ目は、「学校の経営力・教育力を高めます」というカテゴリーですが、ご承知のように部活動支援、国に先駆けて杉並区では中学校部活動活性化の推進を進めてまいりました。昨年は17校36部活。先日、テレビの番組で高円寺中学の部活動が紹介されておりました。そのテレビ番組の主たる内容は、学校が多忙化している。それから教員がなれない部活指導で大変つらい思いをしている。そういった現状に対して先行する自治体はどんなふうに行っているかということで、杉並区が取り組んでいます活性化推進事業の様子を放映しておりました。昨年度はスポーツ庁長官の鈴木長官がお見えになって、松溪中学の部活を見学して、こういった杉並が取り組んでいる部活のあり方を全国的なモデルにしていきたいといった感想をお話されているところであり、今後、先駆的な取組を進めている杉並区としまでも成果を点検し、さらに充実させていく必要があるかと思えます。今年度は19校43部活に拡大する予定です。

それから、副校長校務支援員を昨年16校に配置いたしました。昨年東京都がチーム学校のあり方について検討を進めてくる中で、その答申の中に副校長の校務支援をする仕組みをつくっていくことが望ましいという指摘をしておりますが、これは昨年度杉並区が取り組みました副校長の校務を管理職経験者等が支援していくのをモデルにして、今年度東京都教育委員会も試行的に何校か選んで取組を始めると聞いております。これも私たちが学校の多忙化や教育活動の充実を目指して取り組んだ新しい施策であります。今年度も一層充実を図っていきたくております。

新しい事業といたしましては、学校法律相談の実施。これは杉並法曹界と連携いたしまして、学校が教育活動を進める上で、どうしても法律的な、専門的な判断や連携が必要になってくることから、この間の経験を踏まえて弁護士等法律の専門家が学校からの求めに応じて相談に応じ、なおかつ課題解決に協力していただける、そういう仕組みをつくりました。できればこういった法律の専門家の厄介になるようなことというのはあまり望ましいことではないように思いますが、逆に考えれば、むしろこういった専門的な知見や知識を生かして教育を充実させていくと捉えれば、今後大いに活用が期待されると思います。

3番の「個に応じた学び・成長をきめ細かく支えます」というカテゴリーでは、特別支援教育の充実、中でも昨年度は小学校への特別支援教室の設置を行い、富士見丘小学校エリア6校に開設いたしました。本年度はその実績を生かして、杉並第三小学校、杉並第七小学校、高井戸第四小学校エリアの3つのエリアに、累計で24校開設し、さらに充実を図る予定です。また、中学校への学習支援教員の配置を新たに行います。さらに、いじめ防止対策等の組織を新たに設置いたしまして、必要な対応を図っていく準備を整える予定です。

また、現在適応指導教室といたしまして、不登校児童・生徒が学校に行けないときに、宮前であるとか、あるいは和田であるとか、天沼中学であるとか幾つかの不登校児童・生徒が通うことができる教育機関を設けているわけですが、この適応指導教室に通ってくる児童・生徒たちに、ぜひ宿泊を伴う体験活動をさせてあげたい。適応指導教室に来る児童・生徒の特徴の1つに、人とかかわりを苦手とする、ご飯を食べたり、就寝を一緒にしたり、あるいは何か一緒に活動したりということがしたくてもなかなかできないという特性を持った子どももいます。できれば一晩寝食をともにし、枕投げの1つもしながら仲よしの友達ができて、それが登校のきっかけになってい

けば大変ありがたいし、あるいはそうでなくても地域社会とつながって生きていく、そういったところにつながっていけば大変素晴らしいことかなと考えて、是非実施したいと思います。

次に、家庭・地域との協働に関する部分ですが、この間、杉並区では地域運営学校を進め、現在38校、今年度中に44校、約3分の2、全校64校中3分の2まで広げることができるかと思えます。学校支援本部につきましては全小中学校に指定されておりますので、「いいまちはいい学校を育てる～学校づくりはまちづくり」をテーマにさらに連携を強化してまいります。

つい先日でき上がりました文科省の冊子があるのですが、それでも、「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」という手引書ができ上がって、この中に杉並区はどのように学校支援本部を立ち上げ、地域運営学校に育てていくかといった取組や、あるいは杉並第一小学校が地域と連携して進めているさまざまな取組等が事例として紹介されているところです。これもさらに充実したものにしていきたいと考えます。

5番目は、学校の教育環境の整備・充実でございます。区立小中学校の改築につきましては、高円寺地区の小中一貫教育校、いよいよ工事に取りかかり、完成を目指すところに来ております。桃井第二小学校の改築、これもいよいよ建設に取りかかることになりました。

それから、ICT環境の充実につきましては、この間、電子黒板機能付プロジェクターを全小中学校に導入して授業を進めてまいりましたが、今年度からはタブレットPCの配置校をさらに拡大して、累計17校、特に小学校で使ったものが中学校で使えなくなるといった、そういう断続的な教育ではなくて、小の成果が中学でも生かされるような、そういった連携を生かしてタブレットの学校配置を進めていきたいと考えております。

そして、来年の1月にはICTフォーラムを予定しております。これは単にICT機器の使い方についての研修をするということよりは、むしろコンピュータの使い方のレベルを超えて、これからの杉並の教育のあり方を学校・保護者・地域、あるいは教育委員会、関係機関と膝を交えて語り合い、今後の方向性を見出していきかけになればと思っておりますので、現在関係方面にさまざまな協力を求め、準備を進めているところでございます。

最後に、「誰もが学び続け、その成果を活かせる地域づくりを進めます」、生涯学習にかかわる部分ですが、今後中央図書館の改修に取り組む予定ですが、この中央図書館は、建物としては非常にユニークではありますが、内部の構造であるとか上下水道、あるいは電気設備等、さまざまクリアしなければならぬ課題もありますし、何よりも区民の皆さんの改築にかかる大いなる期待もございます。こういった期待に応え、なおかつ使い勝手のいいものにしていくための基本計画に取り組んでまいります。あわせて永福図書館の移転・改築。これも基本設計・実施設計に入っております。

最後に、科学館を廃止して以来、いわゆるネットワーク型、出前型の、次世代型科学教育を進めてきたわけですが、今年度も一層それを充実させ、さらには次世代型科学教育事業の拠点となる場所等も含め、今後の充実について検討を進めていく予定でございます。

以上、それぞれの目標につきまして、昨年度の成果、そして今年度の取組等についてお話をいたしました。

私からは以上です。ありがとうございました。

区長 どうもありがとうございます。28年度の進捗状況と29年度の取組ということでご説明をいただきました。教育委員会のこれまでの成果については、区として高く評価しております。

ただいま説明のありました教育ビジョン推進計画の改定案については、私も内容を拝見しております。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、大会を区内のスポーツ振興、地域の活性化につなげるとともに、子どもたちにとってより意義深いものとなるよう、オリンピック・パラリンピック教育の推進は有意義な取組であると考えています。

また、多くの区民が身近な地域で学び合い、多様な学習の場を提供する取組は今後も充実を図っていく必要があり、老朽化に伴う中央図書館の改修や、永福図書館の移転・改築など着実に整備を進めていきたいと考えています。

このように改定案は、実行計画等との整合を図った上で、時代の変化に適切に対応したものであると評価しており、今後とも着実に計画を推進していただきたいと思います。

また、いじめ防止等対策についてですが、教育長からお話がありましたとおり、来たる区議会定例会に条例案を提案し、新たに教育委員会の附属機関として「いじめ問題対策委員会」を設置する予定です。この委員会は、学識経験者や弁護士、医師などの専門委員によりいじめ防止に向け有効な対策をうてるよう調査・審議を行っていきます。いじめは、いじめを受けた児童・生徒の人権を著しく侵害するのみならず、その生命・身体に重大な危険を生じさせる恐れがある、絶対に許されない行為でありますので、この委員会を活用し、いじめの未然防止に向けた取組をさらに強化していただくようお願いしておきます。

また、重要な取組の1つである杉並第一小学校の改築につきましては、皆様ご存じのとおり、昨年8月に近隣病院の移転・建て替え計画が明らかになったことを受け、この間、新たに杉並第一小学校の現病院用地への移転・改築の可能性を含めたB案と、現計画であるこれまでの杉並第一小学校等複合施設整備計画であるA案とさまざまな区民等の意見を参考にしつつ、比較考察を行ってまいりました。

A案の策定に当たっては、地域の方々が長い時間をかけて主体的に、そして非常に熱心に議論を積み重ねてきたことは十分に承知しております。杉一小を阿佐谷地域の新しいシンボルとして、また地域との交流を教育に活かしていくという新たな視点を持った複合施設としていきたいという地域の方々の強い思いは、私も非常に重く受けとめておりました。

その一方で、新たなB案は、杉一小を移転改築するため仮設校舎等が不要になるほか、A案に比べ約1,000㎡広い小学校の敷地面積を確保でき、A案と同規模の地上校庭の整備が可能になるなど、将来に向けた教育環境の向上が見込まれます。また、周辺の道路の拡幅整備をより確実に進めることができるため、震災時に甚大な被害が想定されるこの地域の防災性の向上も期待できます。さらには駅から近いという立地を生かし、現在の杉一小跡地を一体的な街区として土地利用の見直しを図ることにより、新たなにぎわいの拠点づくりを検討することが可能となります。しかし、事業計画が長期にわたることや、学校改築や産業商工会館の改築時期がA案に比べると遅くなるといった大きな課題もございます。

これまでの地域の方々の熱心な取組を目の当たりにしてきた私にとっても、A案とB案のどちらを選択するかということはとても難しい判断でございました。しかし、将来にわたる教育環境の向上や長期的な視点から見て、地域の安全性を高められることなどを総合的に考慮し、全体最適・長期最適の視点から、本日B案を整備方針とすることを最終的に決定いたしましたところでございます。

私はこれまで教育の内容については、教育委員会を信頼して基本的に教育委員会に任せる一

方で、就任以来、一貫して教育環境の整備に力を入れてまいりましたが、今回の杉一小の件についても同様の考えでございます。

今回、改築が遅れることで、現校舎については長寿命化の改修工事が必要となりますので、子どもたちの教育環境を維持・向上させるために、できる限りの改修等を計画的に実施するよう指示いたしました。

現時点では、屋上防水、外壁補修、パソコンネットワークの環境、整備などが想定されますが、今後学校や保護者の方々の意見を聴きながら、今年度中に着手できるものは実施するとともに、改修計画を取りまとめ、29年度以降着実に取り組んでいく考えです。なお、こうした改修に当たっては、児童の安全確保と教育活動への影響を最小限に止めるよう最大限の配慮をし、区と教育委員会が連携して、しっかり進めてまいりたいと考えております。

教育長 ありがとうございます。ご承知のように私も教育委員会といたしましても、杉並第一小学校の早期改築を目指して、この間、取組を続けてきたところでございます。区長が今のお話のようにあらゆる要素について慎重に比較検討の上で大きな決断をしたことにつきましては、理解をいたすところでございます。

今後は、老朽化が大変著しい、現校舎の改修、という視点のみに捉われるのではなくて、いかに時代の変化に即した教育環境を提供していくかといった視点からの改修整備を図ることが重要であると私は考えております。単に耐久寿命を延ばすということではなくて、これまで検討してきたことを踏まえて、今ある校舎の中でも実現していくことができれば、それにこしたことはないわけです。ですから、新たな杉一小の移転・改築計画の策定に当たりましては、これまでの改築複合化計画の基本コンセプト等こういったものが基本的に継承されていかなければならないと強く思っているところです。

多くの方々が「かくあるべし、かくあれかし」という願いを持って検討してきた、そのことについては十分その精神やコンセプトは尊重していく必要があるかと思えます。そうした観点から、今後取組を進めていきたいと思っておりますので、区の連携、支援を改めてお願いしたいと考えているところです。

私はこの間、機会があるごとにそんな話をできておりますが、教育委員の皆様方から、もしこの際ということがあれば、お話をさせていただきたいと思えます。

對馬委員 今、教育長がおっしゃられたように、私もこの杉一の校舎改築についていろいろ議論を交わしてまいりました。

先ほど教育長が資料として見せてくださった冊子の中にもあるように、杉一小の地域の方々、本当に熱心に学校を今までも支えてくださっています。どんな学校になっても恐らく地域はそういう学校を支えてくれる、協力してくれる地域なのだろうなと感じておりますが、やはりその地域の考え、希望というものをぜひしっかりと心にとめて、計画を進めていただければありがたいと思っております。

久保田委員 これまで私たちのいろいろな考えや要望等も含めて組み入れていただきながら今回の決定に至ったところに、感謝を申し上げたいと思えます。これからはまさによりよい学校づくりに向けて頑張っていっていただきたいという思いでいっぱいです。何よりも10年という時間と、それから杉一小の保護者、関係の皆様方の思い、これらをどう埋めていくかということが大切になってくると思えます。やはりそこは時間とこれからの真摯な取組、丁寧な取組等々、まさに今の教育

環境をさらに充実させながら新しい学校に向けて動いていくということであるのかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

伊井委員 私どものこれまでの議論を重く受けとめていただき、さまざまなご配慮をいただいてご決断いただいたことに感謝申し上げます。開校する時期と場所ということで、時間と空間の両方が変更になりましたけれども、結果的によりよい学校づくり、まちづくりにつながれば、これまで支えてくださった地域の方々にもご理解いただけるまちづくりの結果になるのではないかなと期待するところです。これまでの音楽を中心とした教育とか、それから杉一小がオリジナルにやってきた大変奥深い取組なども活かしながら、またご配慮いただきながら、今後の政策に取り組んでいただけたらと期待して願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

折井委員 今までのA案がまず提案され、それについて地域の方がたくさん時間を使って話し合いをし、そして思いを1つにして複合施設ということでまとまりかけたそのタイミングでこの新しい案が出たということで、地域の皆様も、そして保護者の方も非常に戸惑っていらっしゃるでしょうということは間違いなく言えると思います。また、新校舎ができる時期が非常に延びてしまったということで、今の小学校にいる子どもたち、そのまた次の世代の、10年までの子どもたちは古い校舎、長寿命化した校舎にいるということで、保護者の立場からするとほかの学校に比べて遜色のない教育を受けているのかどうかということが、一番心配な点だと思いますので、その点においてできる限りのことを、この間のいきさつもごさいますので、ぜひ手厚いケアをしていただきたいなと思います。

杉一小は、私にとっての近隣の学校ですので、よく学校に行くのですが、本当に古い校舎で、でもとても丁寧に使っていて、掲示から全てがとても丁寧になされていて、その地域も、先生も、そして子どもたちも一体になって学校をつくっているという意識が非常に高い学校なのだと思います。新しい校舎ができるまでの間も気持ちよくそれを続けることができるように、区のほうでいろいろと考えていただき、また、区の方案を受け入れてもらうための説明会ではなくて、近隣の方や保護者の方たちがこうして欲しい、こうなるといいなという思いを吸い上げるための説明会であって欲しいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

区長 ありがとうございます。教育長や教育委員の方のおっしゃるとおり、私もこれまでの地域の方々の思いを新たな移転・改築計画においても十分に考慮していかなければならないと、そう考えております。地域の方々を中心に学校づくり、まちづくりを主体的に考えて来られたというプロセスは、阿佐谷のまちの大きな財産でもあると思っております。ですから、これまでの議論の積み重ねがさらに発展するように、今後とも教育委員会と連携してしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そのほか、何か委員の皆さんからご意見等ございましたら、伺いたいと思います。

對馬委員 教育委員をさせていただいておりまして、学校現場に足を運ばせていただいたり、それから、日常の学校生活を見せていただくこともありますし、運動会とか学芸会、合唱コンクールのような一生懸命頑張って成果を発表する形の部分を見せていただくこともあるのですが、そういった活動の中から少し感じたことをお話ししたいと思います。

1つは、先ほど教育長がお話いただいた今までの取組とこれからの中にも入ってきますけれども、昨年度から「小・中学生未来サミット」という名前が変わりましたが、これはもともと中学生が自分たちで、自分たちの身の回りにあるいじめを自分たちで何とか解決できないだろうかというこ

とから始まった取組です。中学生が、自分たちでこれではいけない、何とか変えていきたいという気持ちの中から生徒会で話し合い、全校で話し合い、それをほかの学校の生徒会とも意見交換をしたいということ子どもたちが言い出して、それを先生方がバックアップして、ではということで「杉並中学生生徒会サミット」というのが始まって、私たちも地域の住民とか保護者とかほかの学校の舞台上に上がらない中学生などたくさんの人が見にいて、これはすごいなと中学生の力を本当に感じる意見交換が毎年行われてきました。それぞれの学校でのいじめ防止の取組、見つけたらどうするという前に、やっぱり挨拶をきちんとしようとか、誰か寂しそうにしている子がいたら声をかけてみようとか、そういった本当に日常的なように聞こえながら意外と難しいのではないかなと思うことを子どもたちが正面からぶつかって行って、一生懸命取り組んでいる姿をいつも見てきました。

今年、いじめ問題対策委員会というのを作っていききたいというお話が先ほどもありましたけれども、大人側もこういう委員会、専門的な立場というのはとても大事だと思いますが、やはり子どもたちも自分たちのこととしてなるべくみんな気持ちよく毎日を過ごそうということを考えるのは、とても大事なことだと思います。そういうところで子どもたちの自主的な力を感じています。

そのほかにも、例えば3月でしたか、サイエンスフェスタというのが行われましたけれども、その中でも特に中学生が非常に力を発揮してくれて、来場者の大人たちにも子どもたちにも説明してくれたり、スタッフとしてとても役に立つ、本当に大人のような中学生をたくさん見かけました。

それから、秋に中学生の総合文化祭というのがあるのですが、その中で書評座談会に伺ったときにも、非常に1人1人がしっかりと意見を持って、きちんと意見交換ができていようにも感じました。

区長も何度か行かれたかと思いますが、次世代育成基金を使ってウイロビーに行ったり、小笠原で自然交流をしたり、台湾で野球交流してきたり、こういった事業に私も一緒に行かせていただいたり、あるいはその発表会を見たりしても、本当にそれぞれのところで悩みながら成長していく姿を見て、非常に頼もしく思っています。

こういう事業が始まってもう数年たってきていますので、先輩たちがだんだん下の子たちに教えてくれたりするようになってきている姿も見え始めています。最初に申し上げたサミットも、中学生だけでやっていたものが今、小学生にも広がってきて、昨年からは小学生も5・6年生中心に主体的にかかわるようになってきていますので、こういうような取組がたくさん将来にわたって引き継がれていくと、杉並に住んでいる人たちが、主体的ないい人たちが増えていくのではないかなと、学校づくりがまちづくりに本当になっているなと普段感じておりますので、今日はそのようなお話をさせていただきました。

ありがとうございました。

久保田委員 この3月に、5年ぶりに中学校の卒業式等に行っていました。今回、子供園、小学校、中学校と出席したのですが、実は私、思いがけず中学校の卒業式で、生徒たちの言葉と合唱を聞きながら涙を抑えることができませんでした。

恐らく3年間、あの生徒たちは良いことも悪いことも含めていろいろなことがあったはずなのですが、どんなことがあっても卒業式の日みんながやっぱりよかったと言える、その生徒たちの言葉と姿に胸を打たれました。

そこには生徒たちの頑張り、それを支えた教職員、あるいは保護者、地域の方々のはかり知

れないほどのご尽力があったのだらうと思いました。

まさに卒業という1つのゴールと出発の形がそこに見え、そしてそこには学校の力、総合力、これらが見えてきて、改めて公立学校の役割、働き、その大きさ、大きな力を実感いたしました。これからも共に学び、共に支え、共に創る杉並の教育の実現に向けて、私も微力ながら力を尽くしていきたいと思った次第です。

特に2つ申し上げたいと思います。1つ目は、地域運営学校(CS)についてです。これは教育長からもお話があったところではありますが、今年度中に44校、3分の2を超えるところまで来ています。これまでのCSの取組の広がり、年々CS設置校が増えていくということとあわせて、もう1つ、既設のCS設置校がどのような成果、また課題を抱えているのかということをお互いに共有し合い、またそれぞれのCSがそれぞれのステージを上げていくということが大事なのかなと今、思っているところです。

年に1回でしたか、2回でしたか。CSの会長の連絡会等もありますが、それだけではなくて、これは校長会も含めてですが、もう一度全体で意識化、共有化を図っていく中で、CSの充実を図っていかたいなと思っています。

2つ目は、小中一貫教育についてです。これも先ほど教育長から話がありましたが、杉並カリキュラムということで既に国語、あるいは算数・数学、外国語活動、これらは、9年間を見通したそのつながりある学び、その内容の連続性等、形としてもでき上がっています。現場レベルで言えば、中学校区ごとに小学校も含めて、連携のいろいろな取組が進められてきています。その中で先生方が実際に会い、そして授業を見合い、さらには児童・生徒についてお互いに知り合うということで、一定程度の成果をはっきりと見てとることができると思っています。

この基盤の上に立って、各学校で日々の授業がどうなっているのかというところを検証していく必要があります。というのは、やはり授業自体が改善充実を図られていかなければ、一番大事なところが抜け落ちたままになってしまいます。その点で小中連携、小中一貫ということを考えていく上で、授業の改善充実に向けてどうやっていくのか、これを大事にしていきたいと思っています。

実際には、杉並教育研究会、各教科の研究部会や、あるいは中学校区ごとの小中連携の取組等が授業改善を図っていくことにつながると思います。新たに総合的な学びにかかわる、まさにつながり、かかわりを重視したカリキュラムが間もなく形になって出るとも聞いております。これもまた、杉並の誇るべき大きな取組として、力を入れてやっていければと思います。

最後になりますが、これ以外にも英語教育、特別支援教育、中学校の部活動の外部人材の活用等、学校現場での大きな悩み、課題は多くあります。それらは全て人を充てていくという面が大変強く、それらは行政側からもどのような支援、サポートができるのかといったところと一緒に考えていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

伊井委員 教育委員の伊井でございます。座ったままで失礼いたします。本日はありがとうございます。

昨日は母の日で、西荻窪や荻窪のまちでは、お花屋さんに並ぶ小中学生やお父さんとお花を選ぶ幼児の姿、またお母さんへのプレゼントを抱える人々の微笑ましい様子をたくさん見ることができて、うれしく感じました。

さて、私はこの1年、式典とか卒業式のほか研究発表を初めさまざまな場面でいろいろな学校

の授業を拝見させていただく機会を得ました。教育ビジョンをもとに杉並区が実施されてきた取組が、実を結びつつあると感じることが幾つもありました。ほんの1こまではありますけれども、全体を把握していることにはなりません、児童・生徒たちの様子をお伝えしつつ、子どもたちの置かれている環境について触れたいと思います。

その1つとして、今年度から本格実施となった小学生の放課後等居場所事業です。先日、和泉学園に行ってまいりました。同じ敷地内に150人の学童クラブもあり、満員であるにもかかわらず、登録は250人とのことでした。日により参加する児童の人数は異なるようですが、私が伺った日は参加者が多く、50人以上の子どもたちが参加していて、まずは宿題に取り組む子がほとんどで、終わったら思い思いの遊びを楽しんでいました。この日はけん玉教室もあり、カードに丸をもらいながら、より上の技術に挑戦していました。

支援本部がスポーツ推進委員さんたちのプログラムをつないだり、担当者の人数も厚く、それだけの子どもたちのところに6人から7人の担当者がいらっしゃいました。子ども・子育てプラザの先生方、学校、支援本部やその日はPTA会長さんもちょうどいらして、協力し合い進めておられました。始まりなので課題もあるかと思いますが、異なる学年の交流もあり、ルールを守らないときはしっかり叱られる場面も見ることができて、子どもたちの居場所という環境として可能性を感じるものでした。

次に、特別支援教育の定着を何か想像できるような、とても微笑ましい場面に遭遇しました。ある学校で1年生のアサガオの種まきを拝見したときなのですが、ちょっとしたきっかけで感情のコントロールがつかなくなってしまうお子さんがいました。まずは先生が気長く丁寧に対応しておられて、種まきを手伝っていたその支援本部の方々が、子どもたちの安心感に一役買ってくださり、ほかの子どもたちはセーフティ教室のために粛々と体育館へ行く準備をしながら、そのお友達を気遣う様子も心温まるものでした。

やがて、保健室の先生が面倒を見に到着されたので、担任の先生とほかの子どもたちは体育館へ移動、セーフティ教室が始まりました。少ししたらそのお子さんも戻ってきて、そのお子さんを迎えた時の先生の笑顔がとてもすばらしかったのです。保護者の方も体育館に見えて、先生と話され、お子さんはそのままセーフティ教室に参加できました。先生方のご苦労はいかばかりかとは思いますが、現在杉並区では順次、特別支援教室が進められていくに当たり、保護者とはもちろんのこと、校内の連携やチームワークは欠かせないと感じました。そのお子さんだけでなく、周囲の子どもたちの育ちにもつながっているように思いました。1年生というまだ学校に来て時間も短い子どもたちの成長を見ることができました。

3つ目は、この後折井委員が触れてくださると思いますが、ICTの授業で感動したことがあったのでお伝えしたいと思います。

先進的にICTの活用に取り組んできた学校のことでありますが、5年生がタブレットで立方体のことを学んでいました。画面で見ると立体感があって、算数が苦手だった私もわかりやすいと感じました。算数は、特に図形などは飛躍的に体感できて感じる算数となることが実感できました。1辺が1センチのカラーの立体で思い思いの形をつくり、お互いにデザインを共有したその次には、1辺が1メートルの立方体を紙テープでグループごとに協力してつくることに挑戦していました。

手引きはタブレットで見ながらも、今度はアナログである紙テープを上手に使いながらみんなで

協力していました。展開図を最初につくって組み立てるグループもあり、また最初から1メートルのテープを切って、どうやってつなげようと悩んでいるグループもあり、とにかく全員参加で取り組んでいて、多くの意見も飛び交い、まさにアクティブラーニングだなと感じました。

その日は保護者も見えていたので、共感いただける機会でもあったかと思います。とにかくどの子ども楽しそうで、時折機械の不都合など課題もあるそうですけれども、トラブルがあったときに、先生にこうだよと伝えられる子どももいて、先生のほうも「ありがとう。助かった」と返して、柔軟な受け答えがすすがしく感じました。教科や使い方により学びについて大きな可能性を開拓できる手段だと痛感しました。児童や生徒にとって大切な学びの環境だといえます。1月のICTフォーラムも楽しみにしております。

さて、幾つかのエピソードをお話してきました。子どもたちには自分に自信を持って未来に羽ばたいていって欲しいと心から願っています。自信を支えてくれる根底には、何と言っても学習の力があると私は考えています。昨年度の研究発表では、小中の先生の交流に活路が見出されて、いろいろな工夫がいっぱいあった大宮中学校の授業、基礎基本を実践されていた松ノ木小学校や和田小学校の研究もあり、1人1人に存在する学習のチャンスが形となっていました。

発表の後、質疑応答の場が設けられたり、分科会に分かれ参加した先生方の間で質疑応答にとどまらず活発な議論、意見交換がなされたこともあって、確かな学力が身につくように先生方が指導方法を積極的に開発されている姿は本当に頼もしいものです。全ては携わられているたくさんの方々の関係者の方々のご尽力による賜物だと感慨深く受けとめております。

授業の準備には時間も必要だと思いますので、世間で今よく言われている働き方改革が叫ばれる中、先生方の労働時間と取組とは相反するという懸念も否めないかもしれませんが、先生の授業力はきっと子どもたちにとって、未知数の能力の扉をあけるパワーになると期待でいっぱいです。杉並区では今年度から校長先生が法律相談できるシステムが開始され、また副校長先生の校務支援や学校支援本部、学校運営協議会など学校を支える仕組みが幾つもあります。それらが相互の連携を工夫して先生方の時間の支援につながればと願っております。

子どもの日前後に、テレビで子どもの貧困と教育格差の問題が報道されていました。つらい境遇に胸が詰まるようでした。子どもの食に関する別の番組では、献立のバランスや孤食の問題を取り上げ、子ども食堂のことなども報道されていました。さまざまな事情で共働き、ひとり親世帯が増えています。杉並区では待機児童解消に大きな政策を実行していただいています。本当にありがたいことだと思っております。

先ほど触れた放課後居場所なども含め、生活面、学習面でも子どもの成長に影響している幾つもの環境があります。今後、どのような支えが必要になるのか、思いは尽きません。

食の番組では、それぞれの家庭により考えが異なるので、一家団欒の食事が一番というような押しつけはやめてほしいというファクスが読まれていましたが、どうなのでしょう。子どもはどんな思いなのか、何を望んでいるのか、何が望ましいのか。想像することを怠らないよう努力したいと思っています。1人でも多くの子どもたちがよりよい人生を生き抜いていかれるよう、切に願っています。

ありがとうございました。

折井委員 昨日は母の日ということで思い出したのですが、昨日息子と夫が花を一鉢だけ買ってきて、「これ、おばあちゃんに買って来たんだよ」と言いました。「えっ、私もママなんだけど」と言っ

たら、「君は花より団子でしょ」と言ってみたらし団子が出てきました。よくわかりでと思いました。

さて、本日はICTについてお話をさせていただきたいと思います。各学校の普通教室に電子黒板機能付プロジェクターが設置されて、ICT機器を活用した教育環境は本当にすばらしいレベルまで整っているなど感じております。昨年からはスタートいたしましたICT学校公開もそうですし、通常の学校公開に参加いたしましても、先生方がデジタル教科書をプロジェクターに映し出して、資料を見せたり、音声を聞かせたり、先ほど伊井委員からありました算数に使ったりと、いろいろところで、授業の中で使用してきているなどということがわかります。ICTの活用は順調に進んでいるという印象を持っております。ただ、今後もICTの効果的な活用については、継続して検討していく必要があるのかなとも思っております。

1点目は、区立ですので教員は必ず入れかわるということで、教員間の知識及び運用能力の格差が必ず問題になります。常に埋める必要があるのかなと思います。例えば、私、教員としてこの時期、春と秋に都内の他地区の中学校ですとか高校の教育実習の研究授業に参観に行くのですが、学生たちは通常プロジェクター等を使って模擬授業をして、それで教育実習に行くのですが、実際に行った先では、そういった機器は一切使えないという状況が非常に多くて、そこからすると、杉並区の先生たちは均一的ないい環境で授業ができているのかなと思う一方で、他地区から転入された先生方からすると、今までと違う環境で戸惑いが生じることもあるのかなと思いました。

また、ICTの利用に関してリーダー的な技術もあり、興味もあるような先生が転出してしまうということもございますので、そういったことを念頭に置きますと、継続してサポートが必要なのだと思います。また、どのようにICTを活用するかについても今後の展開を期待したいなど思っております。

ICTの教育の専門家によりますと、まずは使ってみるという時期が必ず必要なのだと。最初から有効的に特別な教育ではなく、とにかくいじって生徒も先生も慣れていく時期が大事だと言っています。杉並は全校的な平均でいってもこの時期を過ぎつつあるのではないかなと思います。すなわち今後は年間の指導計画の中で、どのようにICTを活用していくのか、そしてその活用によってどのような効果を見込むことができ、結果は何だったのかということを生ピアに検討していく時期に入っていると感じます。

区は、これまでICTに関する研究課題校を置いて研究を続けてまいりました。現在は天沼小と和泉学園が取り組んでいるところです。けれども、どちらかというと、中学校は小学校に比べてICTの導入が遅れがち。どちらかというと専科ですので、学校全体で協力することがやや難しい。中学校においてICTを研究課題として取り組んだ平成24年の和田中学校の研究発表では、ICTを用いたドリル系テストをタブレットでやって、その基礎基本の定着に役に立ちましたですとか、タブレットの活用が生徒間の共同的な問題解決力の育成に有効であったということを示しています。

教師側にとっても授業改善の契機となった、もしくはコミュニケーション型授業スタイルの可能性が見えてきたと好意的な意見が出されてきました。

こういったICTの成功例を目の当たりにすることは、ほかの学校の先生方にとってその効果を実感する点でとても有効だと思うのですが、実は私、そのときにいただいてきたもので非常に

役に立つと思ったのは、活用事例集でした。これはタブレットを使ったものだったのですけれども、活用のパターンというのでしょうか。例とともにどのような効果が期待されるかということとあわせて、活用上の留意点、こうするとこんなふうになってしまうので注意といったような落とし穴についても正直に書いてくれていました。こういったものをもらって帰ってくるということが、後日、先生方のご自身の学校で同じような取組をしたいと思ったときにバイブルのようになるのではないかと思います。

また、平成25、26年あたりだと思うのですけれども、ほかのICTの研究課題校では、ICTの機器やツールの使い方を実演してくれて、それを参加者自身が自分でちょっといじってみる、私もいろいろいじってみたのですけれども、そういった試みもありました。研究授業中、先生方はぼんぼんと、手早くやっているので非常に難しそうに思えるのですが、ゆっくりやってみると、慣れればどうにかできるのかなといったような実感を持つことができるという点で、ご参加の先生側にとってもとてもよかったのではないかなと思っています。

このようなさまざまな取組を毎年してきたのですけれども、こういったICTの導入に意欲的な教員と、そうでない教員でやはり温度差があるというのは現実問題あるわけで、ICTに積極的でない先生の意見としては、対面で、その時々に必要な説明を口頭で自分は丁寧にしたいと。子どもたちと対話をしながら授業をしたいのだとおっしゃる先生方が多いと思います。実際問題、私も8年前までは全く同じことを、ICTを利用している同じ大学の教員に向かって言ったことを明確に覚えているのです。それが教員としてのプライドだと。言葉でその時々説明する。そこに醍醐味があると話した記憶があるのですけれども、保護者の方々もやはり同じような意識を持っている方々は結構多いのではないかなと思います。それはPTAの懇談会においても、小学校でも中学校でも似たようなご意見をいただきますので、やはりそうなのだなと思う場が比較的あるのです。どうしてICTを使うのか、なぜ使うのか、なぜ使うといいのか、それは国や都がそれを推進しているからということももちろんあると思うのですけれども、実際に教育現場で役に立つから入れたいという気持ちをいろいろな方に多く知っていただきたいと思います。

あと、教員側からちょっと話がずれてしまうのですけれども、ICTに懐疑的な先生方に対しては、やはり手厚いサポートをしていただきたいなと思います。私自身が機械音痴でICTが嫌いというところからスタートした際に、やはりわからないときにすぐ聞けるということがとても大きな助けになりました。杉並区においても巡回して、サポートしているシステムが既にありますけれども、これをさらに充実していただいて、サポートを受けたいときに受けられる、重点的に必要なときと自立したときとうまくサポートの濃淡がつけられるといいなと思います。

来年の1月にはいろいろなところでお話が出ていると思いますけれども、杉並区で初めてのICTフォーラムが開催されます。今までの研究課題校での研究成果を踏まえて有意義なものとなってくれるといいなと思います。

こういった活用事例集が、いわゆる出版されている書籍以上の価値があると私は思っています。いろいろな書籍を調べてみると、ICT推進という立場からよい点を述べることも多くても、教員が一番必要としている落とし穴を正直に書いてくれているものはありません。ですので、ICTフォーラムにおいても、ただ使ってみて授業が盛り上がった、子どもが喜んだではなくて、教育課程の中で、指導計画の中でこういった意味合いがあるのでやっているのですということを広くほかの教員の方、他地区の先生方にも、そして保護者の皆様にも伝わるような機会にしていっていただ

きたいと思っています。

ICT機器が人と人とのコミュニケーションを奪うものではなくて、コミュニケーションだとかディスカッションだとか、いわゆるアクティブラーニングと言われるものを可能にするために、それを補うためにICTが役に立ってくれる、武器になるのだということをぜひ1月のときには大々的に知らしめてくれるような、そんな大きなフォーラムになることを願っております。

私からは以上でございます。

区長 ありがとうございます。ICTが大事だということで、貴重な予算を充てていくということになりますので、現場でより有効にこれが役に立つように検討を進めてもらえればと思っております。

では、次第の4の「その他」ということで、最近の子どもの傾向や教育のあり方について意見交換ができればということで、まず私からお話をさせていただきますけれども、昨年度1つ印象的だったのが、交流自治体親善野球大会というものがございます。昨年の子どもたちは非常に恵まれていたなと思われたのではないかと思います。西武ドームを活用させていただきました。自画自賛しているわけではないのですが、雨の日でも開催することが予定どおりできるということで、当日、雨だったのでこれを借りたということが本当によかったなと思っておるわけでございます。西武ドームを借りるというのは、西武がリーグの3位になるか4位になるかということで、日程が重なっていて、3位になっていたら借りられず、4位以下だと貸せるというお話で、人の不幸を願って期待しているというのも変な話なのですが、結果西武が負けて、西武ドームが借りられる状況になったわけでございます。けれども、それにもめげず、西武球団には大変協力していただきまして、指導の選手、指導者を派遣していただいたりということで、この球場を有効に活用して中学生が野球の指導を受けたり、それからしっかりしたプロ野球のグラウンドであったものですから、電光掲示板も使わせていただきましたし、場内アナウンス、これも中学校の生徒さんにより行うことができ、そういう意味では野球を核にしているいろいろ広がりを持った大会だったなと思っております。

台湾チームもその前の年はドームではありませんでしたけれども、やはり台湾でプロが使用する球場でやらせていただき、今年度は西武ドームということで、対抗心でやっているわけではないのですけれども、ドームを最大限に活かしてやれたということで、台湾の皆さんも喜んでくれたのではないかなと思います。こういった経験がこれから杉並を担っていく、日本を担っていく若い人たちの今後につながっていけばと考えております。

学校の現場の教育に加えて、こういった次世代育成基金を活用したさまざまな、学校現場の教育を補完するようなことも取り組んでおりますので、ご意見、ご感想があればお聞かせいただければと思っています。

對馬委員 今のお話に関連して、私、去年来た子どもたちの前に台湾に一緒に行かせていただいたのですが、代表中学生が30人、コーチとか私たち役所の人とか一緒に行くと多分50人、応援ツアーでさらに保護者の方々が30人ぐらい来てくださって大所帯で、帰りの台湾の台北の空港で、狭い空港なのでかなり邪魔になるぐらいの人数がいたのですが、偶然台湾の空港で大学時代の友人に会いました。会いましたといっても、そのときすごい行列の中ですれ違っただけで、そのときはほとんど話ができなかったのですが、1年ぐらいたって去年、久しぶりに会ったときに、あのとき会ったよねと。こちらはジャンパーを着ていたかなと思うのですが、杉並の野球チームを引率していたのでしようという話になって、すごくいい子たちだったと言ってもらえまし

た。とてもお行儀のいい、すごく感じのいい子たちでと言ってもらえて、最後に向こうの中学生も本当に最後の最後まで来てくれて、ハイタッチしたりハグしたりしていたので、そんなに静かになんか全然していなかったはずなのに、とても感じのいい子たちで、ああいう野球チームだったらうちの子も入れたいなと思ったと言ってくれて、私も非常にうれしく思いました。すごく頼もしい子どもたちにとってもいい経験をさせていただいて、本当によかったと思います。

その台湾に行った子たちが去年、西武ドームにお手伝いに来たり、見に来たりもしていて、「いいな、ここでやりたかったな」と、将来、ちゃんとプロになってここでやりなさいという話もできたりしました。やはり次世代育成基金というのは、全員が使えるわけではありませんけれども、とても豊かな経験をさせていただけるいいチャンスだと思いますので、ぜひ続けていただけたらありがたいと思います。

教育長 台湾の話が出ましたので、その続きを。先日、区長もご承知の野球のクラブチームの表彰をしたときに、昨年代表選抜で選ばれた子がそのチームに4人いたのです。見たことがある顔だなと思ったら、向こうも知っていますからにこにこ笑いかけてきて、キャッチャーの子とサードの子と、あともう2人いたのですけれども。この秋、試合をやったときからまた一段と成長してたくましくなって、何かが終わった後、また次の機会に出会う機会があるというのは、すごく成長がわかっていいなという感じがします。

今、先輩から後輩へという対馬委員のお話もありましたけれども、実は育成基金を使った事業、小笠原派遣もそうなのですけれども、発表会のときとか事前準備のときに先に派遣された1期、2期生が手伝いに来てくれたり、それから1期生の中には学校の先生になってこういった授業をやりたいと言って大学に行ったのもいますし、ウィロビーに派遣しているプログラムでは、やっぱり事前の学習に手伝いに来てくれたり、5年、6年かかってうまく回り始めました。まさに次世代を育成していくというのが、単に大人が子どもを育てるという仕組みだけではなくて、かかわった人が次の世代にかかわっていく。それは大人から子どもにかかわるという大きな時間の流れだけではなくて、つい5年か6年の世代間が交流していくという仕組みができ始めたな。そういう意味ではこの事業、やはり子どもたちにとってもいい成果、いい影響を及ぼしているなど改めて実感しています。

ちょっと話は変わるのですけれども、最近のいろいろな報道では、学校の先生は忙し過ぎる。とにかくこの忙しさを何とかしなくてはいけないという報道がされています。先ほど話をした高円寺中の部活の委託についても、その流れで報道されていたわけですが、あれを聞いていると、見ていて本当に大変だなと今さらながらに思うのです。文科省が調査した速報値を見ても、かなり学校の先生は忙しいことは具体的に数字として出てきているわけです。私たちもそれを知らないわけではないですし、杉並の場合には部活の外部委託であるとか、学校支援本部であるとか、あるいはさまざまな教育活動に地域人材を活用してサポートしてもらおうとか、できる限りのことはしてきている。それから、学級定数を35人前後で割り返して、少人数編成ができるように区費教員を活用したりして手を打ってきてはいるのですけれども、いよいよこういったデータを見ると、どこかで抜本的な対応、抜本的な対応は国が腰を上げない限り動きはないわけですが、そういうことに取り組む必要がある。それが教育の質を担保して子どものためになっていくのではないかな。ただ、こういった教員の働き方とか学校のあり方というのは、地域との合意が形成されていないと、先生だけ楽しんでいるとか、休んでばかりいるという意見が出てこないわけではないし、

企業はもっと忙しいとか、忙しいのは学校だけではないという意見もないわけではない。それは別に的を外れた意見ではないのですけれども、働き方1つ捉えても、働くことの成果が地域や学校、そして子どもの成長に還元されていくような、そういう働き方ができる仕組みをいよいよ考えて手を打っていかなくてはいけない、改めてそんな思いをしています。

国の動向もよく注意しながら区としても、あるいは基礎的自治体としてできることは何か、そんなこともぜひ考えていきたいと思っておりますので、区長部局とも共同してやっていきたいと改めて思っているところです。

区長 せっかくなので、いろいろ前向きないいお話も続いたのですけれども、幾つか不安な問題というの最近惹起されているので、少しそのお話をさせていただきたいと思っております。

今、教育長からお話がありました学校現場で先生が非常に多忙だと。子どもと向き合う時間が非常に少なくなってきて、それがじわじわといろいろ与える影響が、なかなか重たいものがあるのだというお話は、私もあちこち耳にすることはよくあります。そのため、その管理業務とか事務的な仕事についてサポートする人員を学校に配置するという形を去年からでしたか、やらせていただきましたけれども、さらにさまざま具体的な改善方法があれば、ぜひ現場で活発に議論を重ねて挙げてきていただきたいと思っております。

それから、2つ目に、本日、前年度の監査報告を受けたのですけれども、区政全般にいろいろ監査があるのですけれども、その中の1つに学校にかかわることで、薬とか薬品の管理、こういうものを徹底してきちんとするという指摘がありましたので、当然皆さんのお耳に入っていらっしゃることだと思いますけれども、きちんと現場に指示を徹底させていただきたいと思っております。

それから、似たような話なのですけれども、これは教育現場だけではなくて、私ども区長部局もこのところ、個人情報流出ということが目についていて、今年度は前年までの数年間の傾向と比べると、こういったケアレスミスみたいな、ついうっかり持ち出してどこか忘れてなくなってしまうとか、盗まれたとか、その手の類いの問題の発生件数がちょっと増加しているということがあり、先日、私からもこういった状況を重く受けとめて、現場にきちんと意識の徹底を促すように具体的な方法を求めるということで指示をいたしました。学校も子どもたちの情報を日々扱っていて、大変忙しいからつい家で作業を行うということもわからないでもないのですけれども、そういった場合の管理の仕方、そういったものは徹底しておくということ。これは是非お願いしたいと思っております。

あとは、いじめの問題もありました。いじめの問題というのは昔から、これは子どもの世界だけではなくて、大人になってもいろいろな職場などで、大体人が3人集まれば派閥ができると言われていますが、どこにでも多少のことはあるわけです。私も子どものころを思い出すと、昔は大体けんかで、私など、昔は前から2番目とか3番目ぐらいの小さな体格だったので、上級生で地域のいじめっ子に、何とかけんかに負けないようにするにはどうしたらいいかとか、そんなことばかり子どものころ考えていたことがあります。

今でもそういうのはあるのかもしれないけれども、最近はICTの関係で、LINEのように何人かのグループで一斉に情報を共有できるなど、いい面もあるのですが、これが一旦いじめの道具にされると、聞いている話だけで深刻な問題なのだということがよくわかります。こういう時代だからこそ、学校も、保護者の皆さんも、地域の皆さんも、それから何と言っても児童・生徒が集団心理というのかな、流されていくということではなくて、自分自身の物差し、評価、価値、そういったものをしっかり小さいときから育成していくことが大事なことだろうと思っております。

そのために、ではどうしたらいいかということについては、専門家の教育委員並びに学校の現場の皆さんに期待をし、お任せするしかないわけですが、問題意識としては持つておかなければならないと思っております。

民主主義というのは、いろいろな情報が飛び交うことで、情報化と一体的なところがありますけれども、やっぱり1つ1つの情報のきちんと審議なり、発信意図とかそういうものを自分の中でそしゃくして、自分の判断というものを積み重ねることによって、その水準がきちんと高まり、成熟した民主主義の社会につながっていくものだと思っております。どうも大きなメディアの流す情報や噂をうのみにして、みんなと同じ方向に歩いていけば、みんなと同じ流れに乗っていれば何となく安心なのだという、そういう集団心理というのは人間あるのかなと思います。それもわからなくもないけれども、やはり1人1人の自分の物差しとか価値、見方というのはどういうものなのかというのを自分について深く考察するプロセスを積み重ねることで、それがゆくゆく自分の生き方を、どういう生き方をしていくかということにつながっていくことなのではないかなと思いますので、その辺のことを意識して、ぜひ現場が活性化できるように期待をいたしたいと思っております。

最後にいろいろお話申し上げましたけれども、そろそろ会議をまとめていきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

特に委員の皆さんからなければ、事務局から連絡事項等はございますか。

総務課長 では、事務局から会議録の作成についてご案内いたします。本日の会議録はホームページにおいて公開する予定となっております。後日、委員の皆様を確認をいただいた後に、区長及び教育長から署名をいただき、区ホームページに公表していく予定でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

区長 どうもありがとうございました。では、本日お集まりいただきまして、まことにありがとうございました。本日の会議においては、昨年度の成果と今年度の重点課題についてお互いに情報を交換し、共通の認識を図ることができました。また、教育長を初めとして各教育委員の皆様からさまざまなご意見をいただき、私としても非常に有意義なものになったと思っております。

今年度は、先ほどの議論にもあったとおり改定後の教育ビジョン推進計画を着実に実行していただきたいと思います。私は、区と教育委員会の信頼関係は今さら申すまでもなく、既に太い絆で結ばれておりまして、教育行政については、教育の専門家である教育長や教育委員の皆様が全幅の信頼を置いております。その意味で、引き続き教育委員会と力を合わせ取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして本日の会議を閉会といたします。ありがとうございました。

(終)